

全国有数の漆の産地である茨城県大子町で、特産の「大子漆」の再興を模索する動きが活発だ。漆塗り体験や漆の木の植栽、木に傷を付けて漆を採取する漆かき職人の育成に取り組みNPO法人が活動を開始。工芸作家は伐採後に放置されていた漆の木を活用した食器を新たに開発した。生産者の高齢化と後継者難、安価な外国産の流入で生産量が減るなか、漆文化の継承と発展を目指す。 県北部で山に抱かれた同町中心部。JR常陸大子駅近くの商店街に建つレトロな建物に観光客らが吸い込まれていく。全国の作家が手掛けた漆塗りの器や棚、椅子などが

# 「大子漆」再興へ動く

茨城のNPO

工芸作家

## 植栽や後継者育成 漆の木で新作の皿

展示販売され、訪れた老夫婦は「ツヤがすてきだね」と目を細めた。展示販売された漆塗り体験や漆の木の植栽、木に傷を付けて漆を採取する漆かき職人の育成に取り組みNPO法人が活動を開始。工芸作家は伐採後に放置されていた漆の木を活用した食器を新たに開発した。生産者の高齢化と後継者難、安価な外国産の流入で生産量が減るなか、漆文化の継承と発展を目指す。 県北部で山に抱かれた同町中心部。JR常陸大子駅近くの商店街に建つレトロな建物に観光客らが吸い込まれていく。全国の作家が手掛けた漆塗りの器や棚、椅子などが

展示販売され、訪れた老夫婦は「ツヤがすてきだね」と目を細めた。展示販売された漆塗り体験や漆の木の植栽、木に傷を付けて漆を採取する漆かき職人の育成に取り組みNPO法人が活動を開始。工芸作家は伐採後に放置されていた漆の木を活用した食器を新たに開発した。生産者の高齢化と後継者難、安価な外国産の流入で生産量が減るなか、漆文化の継承と発展を目指す。 県北部で山に抱かれた同町中心部。JR常陸大子駅近くの商店街に建つレトロな建物に観光客らが吸い込まれていく。全国の作家が手掛けた漆塗りの器や棚、椅子などが



麗潤館が開く漆塗りなどの体験講座には子どもも参加する（茨城県大子町）

い」と意気込む。漆はガラスや金属、布などにも塗れるため、「調度品や雑貨にも使途を広げたい」と考えた。作家も精力的に動く。漆採取から木地製作、塗り仕上げまで一貫して行う木漆工芸作家の辻徹さんは、「大子漆の知名度を高めたい」と生活漆器ブランドを立ち上げた。10年に町中心部の蔵に展示販売ギャラリー「八溝塗工房 器而庵（きじあん）」を開設。昨年未利用だった伐採後の漆の木に大子漆を塗った皿を開発した。ごっこつした質感が特徴だ。辻さんが常任理事を務める日本文化財漆協会（東京・台東）も町内で漆の植栽を始めている。大子漆保存会（大子町）の会長で、漆かき歴約60年の職人、飛田祐造さんは「漆の生産や活用は自然と向き合っ息の長い取り組み。意欲的な活動が増えて心強い」と歓迎する。 麗潤館を立ち上げた。漆文化を次代に引き継ぎ、町おこしにもつなげた

麗潤館を立ち上げた。漆文化を次代に引き継ぎ、町おこしにもつなげた